

# たんぽぽ列車 1998年度 1号

☆探していた歯ブラシを保育者が見つけて

M子：「あ～。みつかった～。

けど、どうしてこんなところに？

はぶらしてあるけるのかなあ～？」

(4歳)

☆粘土に粘土板のうさぎさんの形を手で

ギュッと押し付けていた時のこと。

出来たうさぎの耳が切れてしまったのをみて。

S子：「このうさぎさん、

オオカミさんにおみみたべられてん」

(3歳)

☆雲をみて

子：「あっあの雲なんかのかたちだ～」

保育者：「なんだろうね？」

子：「きっとかみなりさまのおうちだよ」

(4歳)

☆足にオロナインをぬってあげた時のこと。

白い薬がなじんでみえなくなって

K男：「あっ！K男のあしおくすり

もうのんじゃった」

(2歳)

☆セミの鳴き声がして

T男：「あっセミのこえや」

W男：「あっあの木かな」

T男：「うん。そうやなつのこえするもん」

(5歳)

☆腰を曲げて

M子：「おばあさんですよー」

とおばあさんになりきってました。

(1歳)

☆雨がふってきて

K男：「せんせい いま

あめ“ぴちよん”っていったよ」

(3歳)

☆会話の中から

M子：「せんせいママんちくる？

おかしいっぱいあるよ」

保育者：「うんいく！！」

M子：「いいよ よごさんといてや」

(1歳)

☆おやま座りをしている

I男：「S男くんこれたいくすわりやって」

S男：「そうや。

おかあさんもたいくつすわりって

いっとったもん」

(4・5歳)

☆ご飯をサララップにくるみ、

小さくなるのを見て

M子：「ちいさいね。あかちゃんみたいね」

(1歳)